

## 岩村城

文治元年(1185年)、源頼朝の家臣・加藤景廉によって築城され、激動の時代を経て、明治維新まで七百年にわたり存続した名城で、日本百名城・日本三大山城に選定されています。

急峻な山頂に壮大な石垣を巧みに構えた近世山城の代表格として城郭ファンにはとくに知られ、江戸時代の府城の中では最も高所の標高717mの山頂一帯に大規模な城郭が構えられていました。



## 霧ヶ城伝説

岩村城内には17カ所もの井戸があり、現在も枯れることなく水をたたえています。

そのため籠城の際に飲み水に困ることがありませんでした。なかでも「霧ヶ井」は城主専用の霊泉で「巖邑府誌」という書物に、「敵が攻め入った時、城内秘蔵の蛇の骨を「霧ヶ井」に投げると、たちまちに霧が湧き出て城を覆い尽くし、城を守った」と記されています。ゆえに岩村城は別名「霧ヶ城」と呼ばれています。

## 女城主ものがたり

文治元年(1185年)、源頼朝の家臣加藤景廉が遠山荘の地頭となり、景廉の長男景朝が岩村城を築き、遠山氏を称しました。

戦国時代末期、城主の遠山景任が病没し、養子として迎えていた織田信長の五男御坊丸がまだ幼少であったため、その夫人おつや(織田信長の叔母)が実質的な城主として、領地を治めていました。いわゆる女城主です。おつやは大変聡明で美しく領民に慕われていたそうです。

元龜3年(1572年)、武田信玄の24将の1人、秋山虎繁が侵攻してきました。おつやは自ら采配を振るい、信長の支援を待って籠城作戦に出ました。しかし、この時、信長は長島の一揆などで前に進めずにいました。籠城は3ヶ月にわたり、城内の食糧も不足して来たころ、虎繁からおつやを妻とすることを条件に無血開城を申し入れてきました。おつやは苦渋の末、城兵や領民の命を守るため敵将との結婚を決意し、開城しました。その後の数年間、おつやは虎繁と共に、城の普請や城下町の守備に勤しみ、平和な日々を過ごしました。

しかし、御坊丸は信玄の下へ人質として送られてしまい、岩村城も乗っ取られてしまったことに信長は黙っていませんでした。

天正3年(1575年)、長篠の戦いで武田勝頼軍が敗戦したことにより、武田と織田の勢力が逆転し、信長の嫡男信忠率いる織田軍が攻め入りました。この時も半年に及ぶ籠城で城を守りましたが、武田の援軍も望めず、信長からの条件を呑み、開城しました。その条件とは、領民を守り、おつやと虎繁の命を守るという約束でした。しかし、信長はこれを反故にし、夫妻は磔刑に処されてしまいました。

女城主 特設ページ <http://onna-jyoushu.iwamura.jp>



お城編

# いわむら観光マップ

岐阜県恵那市

日本百名城  
日本三大山城

岩村城は、大和高取城(奈良県備前中松山城(岡山県)と並び日本三大山城の一つに数えられる名城。  
城は江戸諸藩の府城の中でも最も高い所(標高七二七m)に築かれ、高低差一八〇mの天然の峻険な地形を巧みに利用した要害堅固な山城で、霧の湧き易い気象までも城造りに活かされており、別名「霧ヶ城」とも呼ばれています。

<http://iwamura.jp>

## 岩村城ゆかりの家紋

**加藤 景廉**  
上り藤に三つ目結  
鎌倉幕府開府の重鎮で、岩村城の創業者。霊夢岩に腰掛け、岩村城の位置を定めた。

**河尻 秀隆**  
右三つ巴  
元龜3年(1572年)の岩村城攻めの主力として活躍。現代に残る石垣は秀隆以降の城主により築かれた。

**松平 家乗**  
丸に烏  
大給松平氏。岩村藩初代藩主。関ヶ原の合戦の翌年、戦功により二万石を与えられ岩村城に入城。

**遠山 景任**  
丸に三つ引  
戦国時代、遠山氏最後の岩村城主。織田信長の叔母(のちの女城主・おつやの方)を夫人に迎えた。

**森 蘭丸**  
鶴の丸  
武田氏滅亡後、岩村城を与えられた。本能寺の変で戦死。

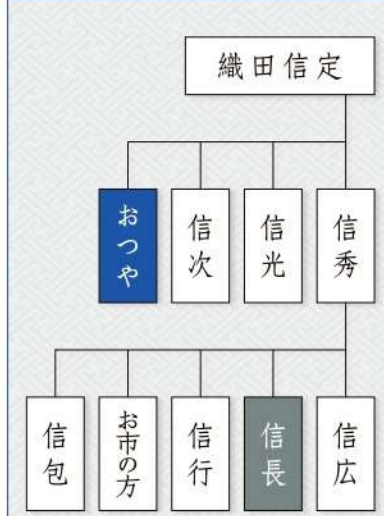
**丹羽 氏信**  
九本骨上がり総槍扇  
寛永15年(1638年)三河国伊保から入封。新屋敷や日ノ出町の開発を行った。現在の城下町はこのとき完成。

**秋山 虎繁 (信友)**  
三階菱  
武田24将の一人。女城主とともに織田軍と戦うも、敗戦して長良川で処刑された。

**田丸 直昌**  
八段の鞠挟み  
伊勢国司北畠氏の一族。森蘭丸の弟・森忠政の転封の後を受けて岩村城主となった。

**松平 乗紀**  
丸に烏  
大給松平氏の分家。知新館の前身である「文武所」を開くなど、文教藩の基礎を作った。

## 女城主と織田家家系図



岩村城跡



六段壁の見事な石垣が  
重厚な歴史を語る場所

大和高取城(奈良県) 備中松山城(岡山県)と並ぶ日本三大山城の一つに数えられる名城で(公財)日本城郭協会により『日本百名城』に選定されました。



藩主邸太鼓櫓  
岩村の歴史のシンボル

江戸時代、城下に時を知らせる為に作られた櫓です。昔そのままの姿で、平成2年(1990年)に藩主邸跡に復元されました。



藩校 知新館  
勉学の町いわむらの象徴

城山の麓に建つ知新館は、林述斎など、数々の偉人を世に送り出した藩校です。

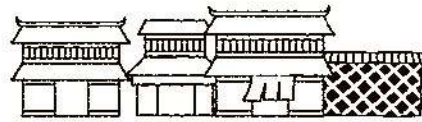
日本一の農村景観展望台

岩村城下町から車で5分。  
ここから望む農村の風景は絶景です。



重要伝統的建造物群保存地区  
(岩村本通り・城下町)

人々の生活の歴史に触れる場所  
岩村本通りは商家の町並みとして、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている女城主ゆかりの城下町。当時の面影を残す商家や旧家、ナマコ壁などが今も佇んでいます。



岩村城下町は、400年の歴史を誇り、朝ドラ「半分、青い。」のロケ地でもあります。

いわむらのイベント

いわむら城下町のひなまつり

江戸時代から伝わる由緒あるおひなさまや藩主邸にまつわる古今雛、装飾が見事な御殿雛など、3,500体を超える様々な種類のおひなさまが展示される春の風物詩。  
3月1日~4月3日



ザ・緑日&ふるさと創生花火

夏祭り・薪能と並ぶ岩村の夏の三大イベントのひとつで、若者の力を結集した一大イベント。昔懐かしい緑日の趣やふるさと創生花火を楽しめます。  
8月13日



秋祭り(神輿渡御行列)

〈岐阜県重要無形民俗文化財〉  
古式の衣装をまとった総勢約300名の行列が数百メートルにわたって城下町をゆっくりと歩く姿は圧巻。  
10月第1土・日曜日



いわむら夏祭り

70年を超える歴史を持つ元祖コスプレ大会「いわむら夏祭り大変装行列」。各町内が工夫を凝らした衣裳や造り物で本通りを練り歩きます。  
8月第1土曜日



いわむら城址薪能

岩村城藩主邸跡で老松を背景に、かがり火を焚き、自然景観を活かした特設舞台で開催される野外能。月の光とたぎぎの薄明かりの中で上演される能はなんとも言えない趣があり、日本の伝統芸能の醍醐味を十分に味わうことができます。  
8月下旬の土曜日



いわむら城下おかげまつり

秋の収穫の喜びと郷土への感謝(おかげさま)を伝える場として、歴史の町並み(岩村本通り)を舞台に開催される秋の賑わい市。  
11月上旬



今よみがえる  
岩村城

岩村城再現CGビューア

岩村城(岩村城跡)は、現在も約1.7kmに及び大きな石垣を残しており、日本百名城のひとつ(岐阜県では岐阜城と岩村城のみ)、また、日本三大山城のひとつに数えられています。残念ながら建物は現存していません。そこで、この度、「岩村城絵図」を基に忠実に再現した「岩村城再現CG映像」を作成しました。城内に設置された看板からQRコードを読み取り、ご覧頂くことができます。

CG映像はナレーションが流れますので、端末の音声でONにしてお楽しみください。  
ありし日の岩村城と現在の風景を現地で重ねて、往事を想像してみてください。



サンプル画像  
(端末の音声でONにしてください)

「岩村城御城印」&「御城印帳」

「御城印」(お城御朱印)は、寺社とは別の「来城記念証」で、日付も入ります。  
登城記念にぜひどうぞ 1枚 300円  
その他、岩村城関連商品も販売中...  
○缶バッジ(2種類) 各 100円  
○岩村城クリアファイル 300円  
○御城印帳 1,800円  
○家紋付御城印帳袋 550円  
○家紋付巾着袋 1,100円  
販売所 (一社)恵那市観光協会岩村支部 / えなてらすいいわむら(観光案内所)



おとく〜ぽん 600円以上の商品がゲット!!

500円で3枚綴りの岩村町でのお買い物にお得なクーポン券。城下町散策しながら、600円以上の商品との交換の特典を受けることができます。また、おとく〜ぽんを提示することで歴史資料館の入館料が100円引きに。販売は、ふれあいの館内の観光協会「えなてらすいいわむら」で。



◆お問い合わせ

(一社)恵那市観光協会岩村支部(まち並みふれあいの館内) tel 0573-43-3231  
http://iwamura.jp E-mail kankou@iwamura.jp  
女城主 特設ページ http://onna-jyoushu.iwamura.jp

岩村歴史資料館 入場料/一般300円 65歳以上200円(高校生以下無料) tel 0573-43-3057  
4月~11月 9:00~17:00 12月~3月 9:30~16:00 定休日/月曜日(休日の場合は翌日)

木村邸	入場料/無料	定休日/月曜日(休日の場合は開館)	tel 0573-43-2846
土佐屋	入場料/無料	定休日/水曜日(休日の場合は開館)	tel 0573-43-3451
勝川家	入場料/無料	定休日/火曜日(休日の場合は開館)	tel 0573-43-4770
加納家(鉄砲鍛冶)	入場料/無料	定休日/木曜日(休日の場合は開館)	tel 0573-43-2442
柴田家	入場料/無料	定休日/金曜日(休日の場合は開館)	tel 0573-43-4660

◆アクセス



# 岩村城跡マップ

岩村城は鎌倉時代文治元年(1185年)に築城されました。大和高取城(奈良県)備中松山城(岡山県)と並び日本三大山城の1つに数えられる城で標高717mの山頂にあり、城下町を見下ろし、四方の山々も一望することができます。天然の峻険な地形をよく利用した要害堅固な山城で、江戸諸藩の府城の中では、もっとも標高の高いところに築城されており、しかも明治維新まで存続したのが、この岩村城です。



**6** 霧ヶ井  
城主専用の霊泉で、敵が攻めてきた時、城内秘蔵の蛇骨をこの井戸に投じるとたちまち霧に覆われて城を守ったと言われています。



**7** 八幡神社  
八幡曲輪の最奥部には遠山氏が崇敬したといわれる八幡神社が造営されていました。



**8** 俄坂門  
八幡曲輪の東面に設けられた門が俄坂門で、二層の櫓門が構えられていました。戦国期まで400年間の岩村城の正門です。



**9** 菱櫓 CG  
石垣を地形にあわせて積んだため、菱形になり、その上に建てた櫓も菱形に建てられました。菱櫓は山城ゆえの特殊な建物でした。



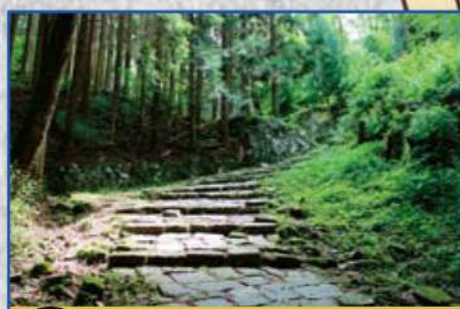
**10** 二の丸  
岩村城最大の曲輪で、番所、役人詰所、朱印蔵、武器庫、米蔵などの施設が設けられていました。また、その中心部には弁天池が配置されていました。



**5** 土岐門 CG  
土岐門に続く第三の門で、前面の空堀には豊橋と呼ばれる木橋が架かっていました。追手門の脇には天守に相当する三重櫓(橋櫓)が構えられていました。



**4** 土岐門 CG  
一の門に続く岩村城第二の門で、城主遠山氏が土岐氏を破ってその居城の城門を奪い、ここに移したという伝承からこの名がつけました。



**3** 一の門 CG  
藩主邸からの登城道の最初に設けられた岩村城第一の門で、櫓門とその脇に単層の櫓の一の門櫓が構えられていました。



**2** 初門 CG  
一直線に登ってきた登城坂(藤坂)は、ここで地形に沿って大きく左に曲がりますが、あえて一度右に曲がるヘアピンカーブとなっています。敵が攻めてきたときに一気に登れないようにする工夫で、有事には仮設の門を設ける計画だったとも言われています。



**1** 藤坂 CG  
藤坂は下田歌子勉学所の辺りから一の門までをいいます。藤坂の名は岩村城創業者加藤景廉の妻が紀州藤城村から持ってきた藤の実を植え大木になったという伝説に因んでいます。



**17** 出丸 CG  
出丸は岩村城の南西部に突出して構えられた、本丸を守る重要な曲輪でした。



**16** 本丸 CG  
本丸には納戸櫓など二重櫓が2基、多間櫓2基が石垣上に構えられ、門が3基設けられていました。



**15** 南曲輪 CG  
外側に厚い土塀を巡らし、城兵の移動も迅速にでき、本丸防衛に重要な曲輪でした。曲輪とは、城の内を外を土塀、石垣、堀などで区画した区域の名称です。



**14** 埋門 CG  
野面積み・打込ハギ・切込ハギといった3種類の積み方が一度に見られる日本でも珍しい場所です。



**13** 長局埋門 CG  
本丸は上下2段の曲輪からなっており、下段は長局(ながつぼね)と呼ばれています。下段から上段に入る門は三個所ありましたが、防衛は重要視されておらず、本丸御殿の格式を整えることを重視していました。



**12** 東曲輪 CG  
本丸長局の東側一段下に設けられた曲輪で、本丸に対する外柵形的機能を持ち、二重櫓が構えられていました。



**11** 六段壁 CG  
六段の石垣は、江戸時代後期に、崩落を防ぐ補強のために下段に石垣を継ぎ足した結果、現在の姿になりました。



岩村城下町は  
まちなみ編の  
マップを見てね!